

群 教 七	G02 - 02
	平28.261集
	社会 - 小

資料から読み取った情報を簡潔に書き出し その社会的背景を考察する力の育成

——『資料の達人』の活用を通して——

特別研修 高橋 悠

I 研究テーマ設定の理由

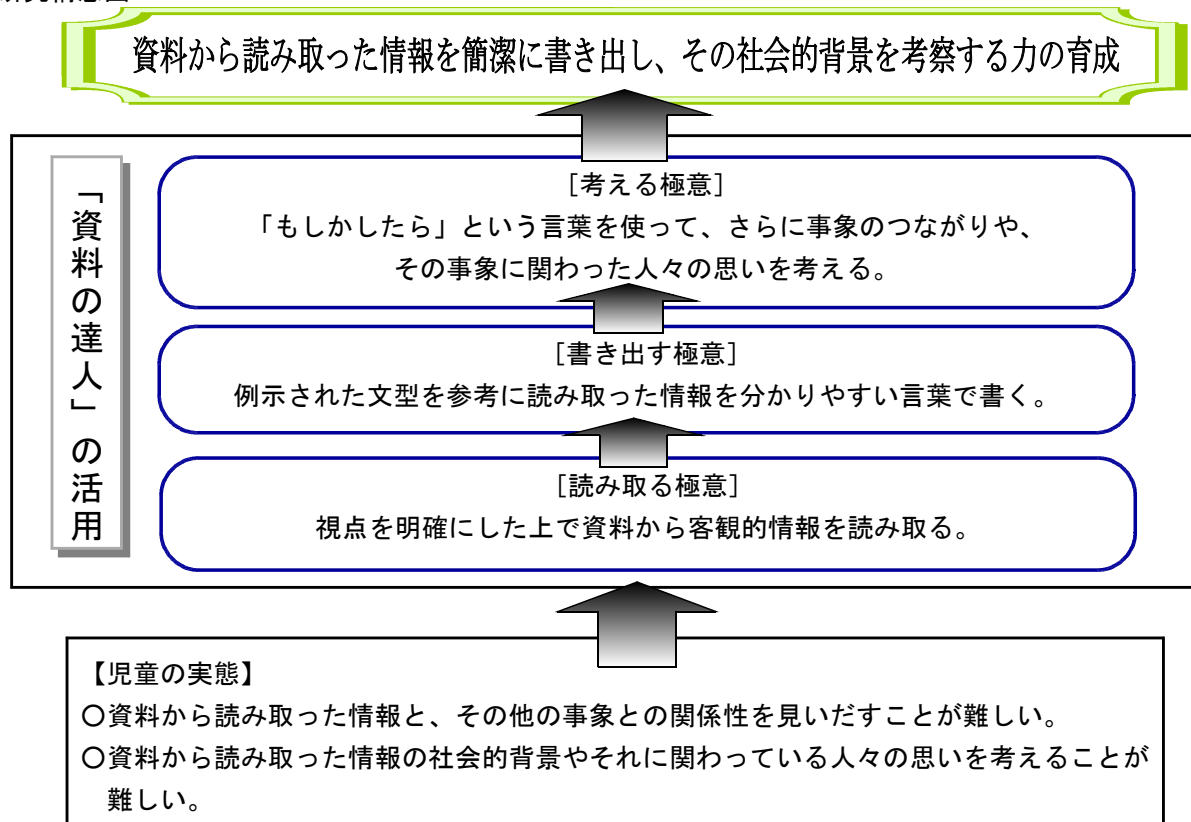
小学校学習指導要領解説社会編では、能力に関する目標について、第5学年及び第6学年では「各種の基礎的資料を効果的に活用し、社会的事象の意味をより広い視野から考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする」と示されている。また、はばたく群馬の指導プランでは、伸ばしたい資質・能力として「先人の働きや文化遺産の役割や意味を考え、それらのもつ価値や意味を理解することができる」とあり、知識を得るだけでなく、考察する力の育成が求められている。

本学級の児童は、与えられた資料から情報を読み取ることはできるが、複数の資料を用いて比較したり、他の歴史事象との関係性を見いだしたりしながら、考察することを苦手としている。このため、広い視野で社会的事象の意味を考えたり、調べたことを表現したりするには至っていない。これは、読み取りの際の観点を明示しないで資料を読み取らせたり、読み取った結果を発表させたりするだけで、調べたことの実をまとめて、歴史的な背景や意味について考察する場を設定してこなかったためと考えられる。

そこで、資料を読み取る際の観点や読み取り結果のまとめ方を明示した「資料の達人」(※P6参照)を活用して資料を読み取り、考察する活動を取り入れることにより、読み取った情報を簡潔に書き出して、その社会的背景を考察できるようになると考え、本研究テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

資料から読み取った情報を簡潔に書き出し、その社会的背景を考察するための手立てとして、資料を読み取る際の観点や読み取り結果のまとめ方を明示した「資料の達人」を作成し、授業の中に取り入れた。「資料の達人」は、「写真・イラスト編」「表・グラフ編」「地図・分布図編」の三編を作成した。

「資料の達人」活用の手立て

手立て1「読み取る極意」で、観点を持って資料から客観的情報を読み取る。

手立て2「書き出す極意」で、例文を参考に読み取った情報を分かりやすい言葉で書く。

手立て3「考える極意」で、「もしかしたら」という発想で事象の社会的なつながりや、その事象に関わった人々の思いを考える。

手立て1では、資料から客観的情報を読み取るために、読み取る際の視点を明確にした。「写真・イラスト編」では、「人の様子」「周りの様子」「時代の違い」など。「表・グラフ編」では、数字の大きい(小さい)ところ、変化の大きいところなど。「地図・分布図編」では、群馬県の位置、分布の集中している地域などに着目した。視点を明確にすることで、スムーズに読み取り活動に取り組めるようにした。

手立て2では、読み取ったことを分かりやすい言葉で書くために、書き出す際の文型を示した。読み取る際の視点に対応した例文を示すことで、読み取りから書き出しの流れがスムーズに行えるようにした。

「写真・イラスト編」では、読み取った内容が資料のどの辺りに書かれているかをワークシートに明記した。「表・グラフ編」では、差がどの程度あるのか、何倍の開きがあるかなど、数値の見方を示した。「地図・分布図編」では、書き出す際に「〇〇地方は」「北と南では」「群馬県の周りは…」といった具体的な地域名を明記した。こうすることで、読み取った情報を整理して書き出すことができるようにした。

手立て3は、事象の社会的なつながりや、その事象に関わった人々の思いを考えるために、考察の手がかりとなる「もしかしたら」という言葉を使い、児童一人一人が自分なりの考えを持てるようにした。「もしかしたら」という言葉を使うことで、正誤に捉われず、自分の考えや予想を書くことが期待できると考えた。「写真・イラスト編」では、人物の動きや周りにある物からその資料が何の様子を表したもののかを考察したり、人物の表情からそこにいる人々の思いを考察したりした。「表・グラフ編」では、数字の変化の大きいところから、変化の背景にどんな出来事が存在するのかなどを考えた。「地図・分布図編」では、分布が集中している地域の共通点や、群馬県に特徴的な分布の様子が見られた際には、その理由や人々の思いなどを考察した。このような手立てで、読み取った情報の要因や背景、それに関わった人々の思いにも目を向けて考察できるようにした。

「資料の達人」を活用することで、「読み取り→書き出し→考察」という資料読み取りの一連の流れを身に付ける。また、「もしかしたら」という発想を大切にすることで、社会的な事象に対し、自分なりの考えを持つことができるようにする。このことは、資料から読み取った情報を考察し、簡潔にまとめる力を高めていくことにつながっていくと考える。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 視点を明示したり、例文を示したりすることで、全ての児童が資料から読み取ったことを分かりやすい言葉で表すことができた。また、書いたことを基に要点をまとめて発表が行えるようになった。
- 児童の9割以上が読み取ったことに対して自分なりの考察を書けるようになった。考察の内容も充実し、社会的な背景や人々の思いについて触れるなど、効果的な資料読み取り活動が行えた。

2 課題

- 「資料の達人」に発展性を持たせるために、個人や学級の「オリジナル極意」を追加していくことが必要である。児童の気づきや学級での話合いの中から新たな「資料読み取りの極意」が生まれてくるよう、計画的に学習活動の中に取り入れていく。

実践例

1 単元名 明治の国づくりを進めた人々（第6学年・2学期）

2 本単元について

本小単元では、黒船来航、明治維新、文明開化、大日本帝国憲法の発布などの幕末から明治の歴史的対象を取り上げ、これらを具体的に調べることを通して、我が国が廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かるようにすることをねらいとしている。

黒船の来航では、ペリーが率いる米国艦隊の来航を取り上げ、江戸幕府や当時の人々への影響を考える。明治維新では、西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允らの働きによって明治天皇を中心とした新政府がつくられたこと、明治天皇の命による五箇条の御誓文が発布され新政府の政治の方針が示されたことなどを調べていく。文明開化では、福沢諭吉が『学問のすゝめ』で欧米の思想を紹介したこと、多くの錦絵などの資料から、欧米の文化が広く取り入れられたことなどを読み取る。大日本帝国憲法の発布については、国会の開設に備えて政党をつくった板垣退助や大隈重信、憲法制定に重要な役割を果たした伊藤博文の働きなどについて調べる。

これらのことから、明治政府が行った廃藩置県や四民平等などの諸改革によって近代国家としての政治や社会の新たな仕組みが整い、欧米の文化を取り入れて我が国の近代化を進めたことや、憲法を制定し、立憲政治を確立したことが分かるようにする。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 黒船の来航、明治維新、文明開化と時代が変化し、明治政府が廃藩置県や四民平等、大日本帝国憲法の発布などの諸改革を行ったことを通して、我が国が欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かるとともに、それらにかかわる人物の願いや働き、文化遺産の意味を考えようとする。 ○ 江戸と明治の日本橋の変化などから学習問題を見だし、文化財、地図や年表、その他の資料を活用して調べたことをまとめるとともに、明治時代になって人々の生活が変化したことや、近代化を進めるために諸改革を行った代表的な人物の働きや文化遺産の意味について考えたことを適切に表現する。 	
評価 規 準	関心・意欲・態度	廃藩置県、四民平等、大日本帝国憲法の発布などの諸改革を行った明治政府に関心を持ち、我が国が欧米の文化を取り入れながら近代化を進めていったことを進んで調べようとしている。
	社会的な 思考・判断・表現	明治時代になって人々の生活が変化したことや我が国を近代化するために様々な諸改革を行った人々の思いや願いについて、学習問題や予想、学習計画を考え表現する。 明治政府の諸改革、大日本帝国憲法の発布などについて調べたことを比較したり、関連させたりして、それらにかかわる人物の願いや働き、文化遺産の意味を考え、人物相関図などに表現している。
	観察・資料活用の 技能	地図や年表、その他の資料を活用して、明治時代になって人々の生活が変化したことや我が国を近代化するために諸改革を行った代表的な人物の働きや文化遺産について、「資料の達人」を活用して、必要な情報を集めたり、読み取ったことを考察したりしている。
	社会的事象についての 知識・理解	黒船来航、明治維新、文明開化と時代が変化し、明治政府が廃藩置県や四民平等、大日本帝国憲法の発布などの諸改革を行ったことを通して、欧米文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かっている。
過程	時間	主な学習活動
課題把握	第1時	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代と明治時代の日本橋の様子を比べ、分かることや考えたことを話し合う。 ・江戸から明治に変わる20～30年間で調べてみたいことを話し合う。
課題 追究	第2時	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかにも変化したものはないか疑問を持ち、資料を見て自分の考えを述べ合い、調べたいことを学習問題としてまとめる。
	第3 ～6時	<ul style="list-style-type: none"> ・明治維新の中心となった人物について調べ、何を指していたのかを考える。 ・大久保利通らが、どのような国づくりを目指したのかを調べ、分かったことや考えたことを発表する。 ・政府の改革に不満をもつ人々の行動について調べる。 ・板垣退助と自由民権運動について調べる。 ・各地でつくられた憲法案や伊藤博文がつくった憲法案について調べ、話し合う。
まとめ	第7時	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返って、各時間のまとめを整理し、グループで人物関係図を作成する。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全7時間計画の第4時に当たる。ここでは、自由民権運動の起こりと広がり資料から読み取ることが中心となる活動となる。そこで、効果的な資料の読み取り活動の実現に向けて、次のように手立てを具体化した。

手立て1「読み取る極意」で、「演説の中止を求める弁士」「自由民権運動の広がり」の二つの資料から視点を明確にした上で客観的情報を読み取る。
 手立て2「書き出す極意」で、読み取った情報を、整理して自分なりの言葉で書く。
 手立て3「考える極意」で、資料から読み取った情報を基に、自由民権運動に関わった人々の思いや運動が広がっていった理由について考える。

4 授業の実際

本時は、「政府に不満を持つ人々の行動が反乱から言論へと変化していったことを、国会開設を求める板垣退助の願いや行動と関連付けて考える」ことをねらいとしている。

このねらいの達成に向けて、「資料の達人」を活用して、「演説の中止を求める弁士」「自由民権運動の広がり」の二つの資料を読み取った。資料の読み取り活動の流れは以下の通りである。

(1) 「読み取る極意」で、視点を明確にした上で資料から客観的情報を読み取る

本時で扱った資料は、図1のような「演説の中止を求める警官」のイラスト資料と「自由民権運動の広がり」の分布図資料。イラスト資料では、視点①人物の様子、視点②周りの様子とともに、今回は図中の文字にも着目させた。また、分布図資料では視点②群馬県の分布の様子、③マークが多く集まっている地域に着目させた。

その結果、図1の資料では、全ての児童が表1にあるように「警官が何かしているな…」「下の人が何かさげんでそうだな…」「やかんが飛んでいるな…」「かべのはり紙に何か書かれているな…」と、与えられた視点のいずれかに着目する点を見付け、資料から客観的な情報を読み取っていた。また、多くの児童が「人物の様子」「周りの様子」の両方の観点に着目し、様々な角度から政府による言論の弾圧とそれに対する人々の反発の様子を読み取っていくことができた。

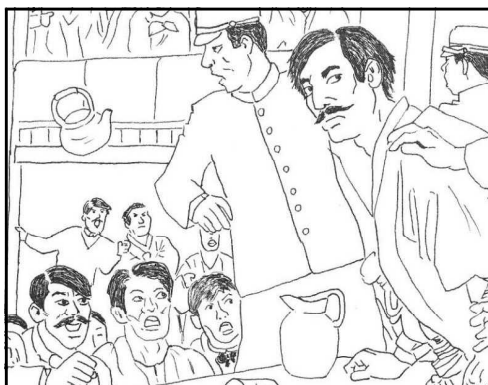


図1「演説の中止を求める警官」

分布図資料は、教科書に掲載されていた「自由民権運動の広がり」を日本地図上で確認できるものを用いた。児童は表2のように、まずは群馬県の様子に着目した。そして、日本全体の分布の様子を比較しながら読み取っていくことができた。

表1 資料1を見る際に児童が着目したところ

極意番号	読み取る極意（視点）	着目したところ
①	人物の様子に着目せよ！ (何をしているか、何を言っているか)	・警官が何かしているな… ・下の人が何かさげんでそうだな… ・演説者が何かされているな…
②	まわりの様子に着目せよ！ (何があるか)	・やかんが… ・ぼうしが… ・かべのはり紙に何か書かれているな…

※ 極意番号とは、「資料の達人」に示された読み取りの際の視点

表2 資料2を見る際に児童が着目したところ

極意番号	読み取る極意（視点）	着目したところ
②	群馬県の場所を見つけるべし！	・群馬県に色はついているかな… ・群馬県は何色になっているかな…
③	色やマークをよく見るべし！ (何色がどの辺に集まっているか)	・ピンクが多いのは… ・色が付いていないのは… ・北や南の方は…

(2) 「書き出す極意」で、文型を示し読み取った情報を分かりやすい言葉で書く

図1の資料の場合は、「書き出す極意」に示された例文を参考にしながら、読み取ったことを簡潔な言葉で書き出させた。その際、「右上のはり紙には…」 「左側にやかんが…」 など、その情報が資料のどこから読み取れたかを明記させることで、発表の際に聞いている人にも情報が伝わりやすいようにした。また、分布図資料では、「群馬県はピンク色になっている」「関東地方にピンク色が集まっている」など、地名を明記させた上で読み取り結果を書き出させた。

その結果、イラスト資料、分布図資料ともに、「読み取りの極意」を基に、資料を見る視点に気付くことができた児童は、表2のように読み取ったことを自分の言葉で書き出すことができていた。

表2 ワークシートの記入例

極意番号	読み取ったこと
①	左下の人たちは何か文句を言ってる。
①	右にいる警官は演説者を止めている。
②	左上にやかんやぼうしが飛んでいる。
②	右上にはり紙に「言論の自由」と書かれている。

(3) 「考える極意」で、事象の歴史的なつながりや、その事象に関わった先人の思いを考える

図1の資料からは、はり紙の文字、聴衆の不満げな様子、演説者を止める警官の様子から、言論による自由民権運動の高まりを読み取らせようとした。「もしかしたら…」 という言葉の後に、予想したことや考えたことを続けて書かせたことで、表3にあるように児童は自分なりの発想で考えを書き表すことができていた。また、分布図資料では、「関東地方を中心に自由民権運動が展開されたこと」「日本全国に運動が広がったこと」「群馬でも運動が起こっていたこと」を読み取らせようとした。ここでも、「もしかしたら…」 という言葉を使わせたことで、「もしかしたら、関東を中心に国会を開いてほしいという声が高まったのかもしれない」「もしかしたら、日本全国に国会を開いてほしいと考えている人がいたのかもしれない」などの、予想や考えがワークシートに書かれていた。

表3 ワークシートの記入例

極意番号	もしかしたら…
①	演説者に不満があるのかもしれない。 ----- 警官に不満があるのかもしれない。
①	演説者は言っはいけないことを言ったのかもしれない。
②	人々に不満がたまっているのかもしれない。
②	自由に発言できることを求めているのかもしれない。

その結果、図1の資料については児童の9割以上、分布図資料については児童の8割以上が資料から読み取ったこと背景や他の資料とのつながりを考察したり、資料に描かれている国会開設を求める人々に思いを巡らせたりしながら、自分の考えを書き表すことができていた。

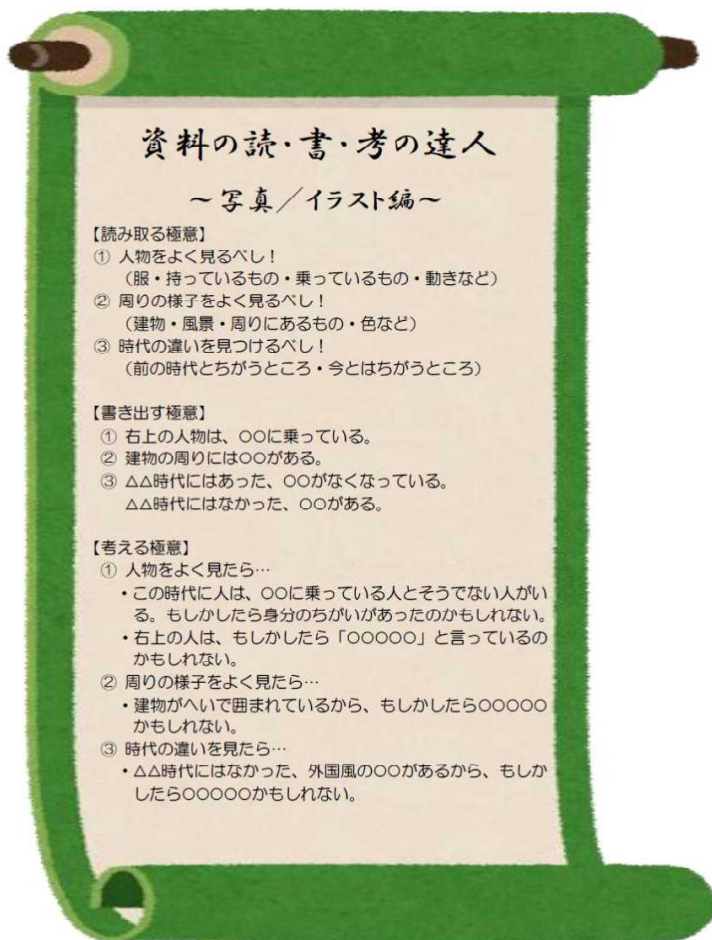
5 考察

本時の授業における児童の反応やワークシートへの記述から、「資料の達人」を活用した資料の読み取り活動について、以下のようなことが分かった。

「読み取る極意」で、視点を明確にした上で資料から情報を読み取らせたことにより、全ての児童が、資料を見て気付いたことを書くことができた。これまでは、資料のどこを見てよいか分からず、手が止まっていた児童も、視点を明らかにしたことにより、活動に積極的に参加できるようになった。また、これまでは気付いたことを一つしか書くことができなかった児童が複数の事柄を書いている姿も見られた。

「書き出す極意」で、文型を示した上で読み取った情報を分かりやすい言葉で書かせたことにより、全ての児童が、分かりやすい端的な言葉で、気付いたことを書くことができた。イラスト資料の場合は、資料のどの辺りにそれが描かれているのか、分布図資料の場合は、地図のどの地域の特徴なのかを明記させたことにより、情報を整理して書き表すことができた。

「考える極意」で、「もしかしたら」の発想で事象の歴史的背景や、それに関わった先人の思いを考えさせたことで、イラスト資料については9割、分布図資料については8割の児童が自分なりの考えを記述することができた。分布図資料で、国会開設を求める人々の声が高まった背景を考える際に、イラスト資料から読み取った「政府に対する不満」があるのではないかと考える児童が多く見られた。これらのことから複数の資料を関連付けながら、歴史的な事象について考察することができたと考える。



「資料の達人」活用の手順

- (1) 【読み取る極意】で、資料を見る際の視点（どこを見たらよいか）を知る。
- (2) 【書き出す極意】で、示された例文を参考にしながら、読み取ったことを簡潔な言葉で書き出す。
- (3) 【考える極意】で、「もしかしたら」という発想で事象の社会的なつながりや、その事象に関わった人々の思いを考える。

☆自分なりの考察が行えたら…

- (4) 考えを全体で共有し、友達の意見や他の資料から読み取ったこと、教科書の記述等と照らし合わせ、社会的事象に関わる部分をキーワードとしてまとめ、学習問題の解決につなげる。

資料の読・書・考の達人

～表／グラフ編～

【読み取る極意】

- ① 題名を見つけるべし！
(何についての表／グラフか)
- ② まわりをよく見るべし！
(縦軸は何か・横軸は何か・単位は・出典は・いつの資料か)
- ③ 全体の変化を見るべし！
(全体的に増えている・全体的に減っている・変わらない)
- ④ 変化が大きいところに丸を付けるべし！
(急に増えている・急に減っている・差が大きい)
- ⑤ 比べてみるべし！
(どちらが多いか・差は広がっているか・逆転しているか)

【書き出す極意】

- ① このグラフは「〇〇〇〇の変化」を表したものだ。
- ② 縦軸は〇〇、横軸は〇〇を表している。
縦軸の単位はグラム。 ～～年に作られた資料だ。
- ③ 〇〇は、はじめよりも増えている。(減っている)
- ④ ～～年から～～年の間が、大きく増えている。
- ⑤ 〇〇〇の方が△△△よりも～～人多い。(〇倍)
はじめは、〇〇〇の方が多かったけど、～～年には、△△△の方が多くなっている。

【考える極意編】

- ① 全体の変化を見たら…
・工場で働く人の数が増えているから、もしかしたら〇〇〇〇かもしれない。
- ② 変化が大きいところに丸を付けてみたら…
・～～年から～～年にかけて、〇〇〇が急に増えているから、もしかしたら△△△があったのかもしれない。
- ④ 比べてみたら…
・〇〇〇よりも△△△の方が多いのは、もしかしたら□□□□が原因かもしれない。

資料の読・書・考の達人

～地図／分布図編～

【読み取る極意】

- ① 題名を見つけるべし！
(何についての地図／分布図か)
- ② 群馬県の場所を見つけるべし！
(群馬県がのっていないかったら、日本のどの辺りか考える)
- ③ 色やマークをよく見るべし！
(何色が多いか・マークが多く集まっている場所はどこか)

【書き出す極意】

- ① この地図は「〇〇〇の広がり」を表したものだ。
- ② 群馬県は右上の方にある。
(群馬県はのっていないけど、だいたいこの辺だな…)
- ③ 関東地方の近くに〇〇色が集まっている。
海の近くにマークがならんでいる。

【考える極意】

- ① 色やマークをよく見たら…
・関東地方に、〇〇色(マーク)が多く集まっている理由は、もしかしたら〇〇〇〇だからかもしれない。

